

国際共同研究事業
スイスとの国際共同研究プログラム
平成 29 年度実施計画書

平成 29 年 3 月 3 日

共同研究代表者

所属機関・部 局 国際基督教大学・教養学部

職・氏名 准教授・李 勝勲

1. 研究課題名 (和文) 音声音韻及びローマ字と元文字の新正書法: ヒマラヤの原住民話者への助力

(英文) Phonetics Phonology and New Orthographies: Helping Native Language
Communities in the Himalayas (PhoPhoNo)

2. 共同研究実施期間

平成 29 年 2 月 1 日 ~ 平成 32 年 1 月 31 日 (3 年 0 ヶ月)

(注) 本計画書は、受託機関を通して電子データにて提出してください。

5. 本年度実施計画の概要

※ 申請書の内容を踏まえて、日本語にて記入してください。

※ 経費及び交流計画との関連がわかるように具体的に記入してください。

平成29年は音響と空気力学の研究が中心となる時期とする。日本の研究チームの目標は、ネパールのタマン語の二方言とデンジョンケー語の基礎研究に基づき、これらの言語の音声の物理的な特質と音韻論的パターンを調査することである。

2017年3月27日から4月3日まで日本の研究代表者Seunghun Leeがベルン大学に渡航し、スイス研究チームと直接対面して準備のための会議を何度か開く。この会議では、日本チームとスイスチームの詳細な研究計画について話し合う。また、タマン語とデンジョンケー語が話されている地域への研究訪問計画の詳細についても話し合い、確認をとる。

スイスから帰国の後、Seunghunと二人のポスドク（博士課程修了者のDr. Hwangと博士後期課程学生のMr. Bajracharya）で音響、空気力学研究のマテリアルを約2ヶ月間かけて準備する。また、このマテリアルを吟味、推敲するために、研究顧問の川原繁人（慶応大学）、Julián Villegas（会津大学）、Jeremy Perkins（会津大学）と二日間の研究会議を開く。

6月中旬から7月下旬までの期間はヒマラヤにおいて調音と空気力学のデータ収集にあてる。スイスの研究チームはすでにこの地域での研究許可を取得しており、日本の研究チームにも同等の研究許可を得てプロジェクトが円滑に進められるようにする。まず、日本チームとスイスチームがネパールのカトマンズで合流し、タマン語のマテリアル収集を協力して行う。その後、二人のポスドク（Dr. HwangとMr. Bajracharya）がネパールで研究を続けている間に、研究代表者（Seunghun Lee博士とVan Driem博士）はインドのシッキムでデンジョンケー語のデータ収集を行う。

2017年8月から2018年3月までの期間は収集したデータの解析と分析にあてる。データの基礎的な解析処理には二人のポスドクのほかに学部生の研究助手があたるが、代表研究者の管理のもとに、ポスドクは研究助手の指導も責任をもって行う。

2017年9月には、スイスチームが来日し、その段階での音響、空気力学の研究成果を考察し、新しい正書法作成に向けての第一次案を作成する。また、この期間に、研究顧問の川原繁人博士（慶応大学）、Julián Villegas博士（会津大学）、Jeremy Perkins博士（会津大学）の三氏とデータ処理とデータ管理などについて協議する。

2018年1月には、きちんとしたデータ分析が完了している予定である。研究顧問も含めた会議を開き、平成30年に向けた新しいマテリアルの展開のためのフィードバックを得る。2018年2月と3月には、本研究成果を国内外に広く知らしめるために様々な学会での研究発表を試みる。また、それと同時に国際的に評価の高い専門誌に投稿し出版する予定である。

6. 本年度経費総額* 10,363 千円

* 研究経費と業務委託手数料の合計を記入して下さい。

(単位：千円)

研究経費							業務委託 手数料
設備備品費	消耗品費	旅費等		人件費・ 謝金等	その他経 費	外国旅 費・人件 費・謝金 等に係る 消費税*	
		国内旅費	外国旅費				
2,220	218	492	2,627	3,864	0	大学負担	942

* 外国旅費・人件費・謝金等に係る消費税を本経費から支出しない場合は、その理由等を「外国旅費・人件費・謝金等に係る消費税」欄に記入してください。

* 委託費の上限は申請額に基づき、研究経費（直接経費）1,000万円以内/年（かつ3,000万円/全研究期間）に対し、10%以内の業務委託手数料を加えた額とします。

翌年度所要見込額	翌々年度所要見込額	3年度後所要見込額
11,000	10,337	

左の欄は該当する場合のみ記入してください。
(単位：千円)

* 上の欄は該当する場合のみ記入してください。(単位：千円)

* 委託費の上限は申請額に基づき、研究経費（直接経費）1,000万円以内/年（かつ3,000万円/全研究期間）に研究経費に対し、10%以内の事務委託手数料を加えた額とします。

研究計画全体必要額
33,235

2年度目以降の場合は、前年度までの執行済額も含めて記載してください。
(単位：千円)

* 研究計画全体必要額の上限は申請書記載の額とします。

7. 設備備品費、消耗品費、人件費・謝金等、その他経費

	細目	金額 (単位：千円)	積算内訳
設備備品費	Phonatory Aerodynamic System	1,230	Model: DUAL-PLUS (x 1) Maker: Glottal Enterprise
	Nasality Visualization System	990	Model: NVS-MU (x 1) Maker: Glottal Enterprise
	計	2,220	
消耗品費	SD Card (64GB)	20	x 4
	External Harddrive	30	x 2
	Books	168	x 20 - documentation, phonetics
	計	218	
人件費・謝金等	2 Post-docs	2,470	19 hrs x 50 wks x 1,300 yen (Hwang, Bajracharya)
	2 Undergrad assistants	960	10 hrs x 40 wks x 1,200 yen (Hanna Kaji, Haruka Tada)
	Participant payment	40	40 x 1000 yen
	3 Collaborator payment	400	400,000 yen (Kawahara, Villegas, Perkins)
	計	3,870	
その他経費			
	計		

備考：

- ① 細目は設備備品費、消耗品費、人件費・謝金等、その他経費（「通信費（切手・電話等）」「運搬費」「印刷費」等（手引 8-8 参照）の別に記入してください。
- ② 設備備品費、消耗品費、人件費・謝金等、については、「積算内訳」の欄に品名又は人物名、単価及び数量を明記してください。

8. 交流計画

(a) 日本側参加者（代表者を含む）の国内出張計画

出張者 (氏名)	出発地 (都市名)	用務先 (都市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
Perkins, J.	Aizu	Tokyo	May, Sep, Jan (2 days)	Expert consultation	有
Villegas, J.	Aizu	Tokyo	May, Sep, Jan (2 days)	Expert consultation	有

* 旅行期間の欄の記入例：「6月頃、10日間」

** 本経費使用予定の有無を記入すること

(b) 日本側参加者（代表者を含む）のスイスへの渡航計画

出張者 (氏名)	出発地	用務先 (都市名)	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担**
Lee, S.	ICU	Bern	4.1 - 4.4 (4 days)	Project launching - 3 year plan - fieldwork in the summer	有

* 旅行期間の欄の記入例：「6月頃、10日間」

** 本経費使用予定の有無を記入すること

(c) 日本側参加者（代表者を含む）のスイス以外の国への渡航計画*

出張者 (氏名)	出発地	用務先 (国名・都 市名)	旅行期間**	用 務 (用務先・用務内容)	経費負担***
Lee, S.	Tokyo	Nepal, Kathmandu	June (10 days)	Data collection: Tamang	有
		India, Sikkim	July (30 days)	Data collection: Dränjoke	有
Jiwak, B.	Tokyo	Nepal, Kathmandu	June/July (40 days)	Data collection: Tamang	有
Hwang, H.	Tokyo	Nepal, Kathmandu	June/July (40 days)	Data collection: Tamang	有

* 外国出張の渡航先は原則としてスイスのみとします。ただし、当該共同研究の研究成果発表を目的とする学会等への出席や、フィールドワーク等で当該第三国へ行くことが必須である研究上の理由がある場合に限り、スイス以外の国を訪問することが可能です。

** 旅行期間の欄の記入例：「6月頃、10日間」

*** 本経費使用予定の有無を記入すること

(d) スイス側研究者の来日計画

出張者 (氏名)	用務先	旅行期間*	用 務 (用務先・用務内容)
Van Driem, G.	Tokyo	Sep (7 days)	Discussing results from the summer fieldwork & planning for fieldwork in 2018.
Grollmann, S.	Tokyo	Sep. (7 days)	
Gerber, P.	Tokyo	Sep. (7 days)	

* 旅行期間の欄の記入例：「6月頃、10日間」